

その言葉はどんな武器にも負けない

未来のために、愛する家族がいるすべての人のために
いま、立ち向かう —— 言葉だけを武器に

これは、全米を勇気で満たした感動の実話である

ジョージ・クルーニーが監督し、本年度アカデミー賞で作品賞・監督賞をはじめ、主要6部門にノミネートされた話題作が遂に日本公開!

脚本・出演も務めるこの映画は、1950年代、不当な権力に対抗し、「赤狩り」と呼ばれた時代に終止符を打った伝説的なニュースキャスター、エド・マローと彼とともに闘った男達の物語。アメリカの歴史を変えたニュースの裏にある彼らの栄光と挫折を、クルーニーは敢えて美しいモノクロ映像で撮り上げ、本作品は撮影賞にもノミネートされた。マローを演じ、主演男優賞候補となったデヴィッド・ストラザーンの息を呑む迫力、クルーニー演じる番組プロデューサーとの大人の友情も、観る者の心をとらえて離さない。すべてを賭けて立ち上がったマロー達の姿は、当時全米に勇気を吹き込んだ。信念をもって生きる者達の凜とした美しさ、その勇気は、時代を超えて今も我々の胸を熱くする。

(タイトルの「グッドナイト&グッドラック」は、番組を締めくくるのにマローが毎回使っていた言葉)



「僕はこの映画をどうしても撮りたかった」 —— ジョージ・クルーニー

ニュースキャスターだった父をもつクルーニーが「父へのラブレター」というこの映画は、彼にとって長年の夢だった。

また、テロの脅威に世界が保守化を強める今、敢えて挑んだ意欲作でもある。

その情熱は、自宅を抵当にいれ、製作費を捻出したというエピソードにも表れている。

信じていた —— すべてを賭けて守るべき正義があることを

1953年、自由の国アメリカで、国民の、そして報道の自由が死のうとしていた。

米ソ冷戦下、マッカーシー上院議員が率いる委員会は、

国内の共産主義者を根絶やしにしようとして躍起になっていた。

彼らは、政府から軍部、そしてハリウッドまで、根拠の有無に関わらず、

共産主義とみなした者を次々に告発。数千人が地位や職を追われ、

自分を守るために友人や家族を密告する者もいた。

報復を恐れるマスコミが見えふりをする中、大手テレビ局CBSの

人気キャスター、エド・マロー(デヴィッド・ストラザーン)と

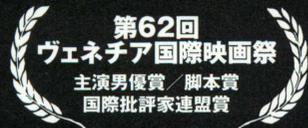
プロデューサーのフレッド・フレンドリー(ジョージ・クルーニー)は、

議員の虚偽と策謀の事実を番組内で報じることに踏み切る。

だが、最初の放送を行った彼らには、政府による圧力や罠、

そして信じていた会社からの孤立が待ち受けていた……

..... Comments



第62回
ヴェネチア国際映画祭
主演男優賞 / 脚本賞
国際批評家連盟賞

名作だ。情熱的に正義を問い、心揺さぶる ★ニューヨーク・ポスト

これは、今のアメリカが
置かれている脅威と全く同一だ! ★ローリング・ストーン

監督・共同脚本・出演：ジョージ・クルーニー「オーシャンズ11」
出演：デヴィッド・ストラザーン「L.A.コンフィデンシャル」/ロバート・ダウニー・Jr.「アリー・myラブ」/ハリスシア・クラークソン「グリーンマイル」
製作総指揮：スティーヴン・ソダーバーグ「オーシャンズ11」/トヨフィック | 共同脚本：グラント・ヘスロウ
★サウンドトラック「グッドナイト&グッドラック / フィーチャリング・ダイアン・リーヴス」：ピクチャーエンタテインメント(4月発売)
ジョージ・クルーニーによる選曲! 本年度アカデミー賞ジャズ・ヴォーカル部門受賞!!
★ノヴェライゼーション：ハヤカワ文庫(4月刊)

公式サイト www.goodnight-movie.jp

〒100 東京都千代田区有楽町1-2-2
シャンテシネ 1.2.3.
03-3591-1511(代)